

【スケジュール】（変更になることがあります）

8月24日（土）9時 関空発（CA162便。集合は2時間前）

昼 北京着。バスで張家口市蔚県へむかう。着後、打樹花鑑賞 〈蔚県泊〉

25日（日）代王城鎮で植樹。午後、西窰頭村訪問 〈蔚県泊〉

26日（月）蔚州郷土樹木園で植樹、見学。午後、蔚州古城、切り絵の村見学 〈蔚県泊〉

27日（火）飛狐峪、空中草原見学。バスで大同市へ 〈大同市泊〉

28日（水）雲崗石窟見学。白登環境センター、采涼山、カササギの森見学。
バスで靈丘県へ 〈靈丘県泊〉

29日（木）南天門自然植物園見学 〈靈丘県泊〉

30日（金）バスで北京へむかう。帰国

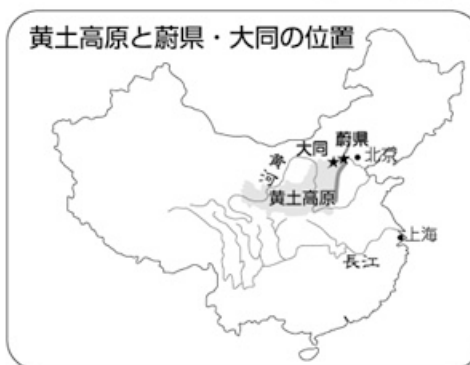
【利用予定ホテル】

蔚県：英豪国際酒店または同等クラス

靈丘県：明珠国際商務酒店または同等クラス

大同市：雲崗建国賓館または同等クラス

【食事】朝食6回、昼食7回、夕食6回



●黄土高原スタディツアーとは

緑の地球ネットワーク（GEN）は、1992年、中国山西省大同の黄土高原で緑化協力をはじめました。大同は黄土高原の東北端、北京の西約300kmに位置し、砂漠化の最前線であり、また、風砂の源でもあります。年間降水量が約400mm、その大半が夏に集中し、表土を押し流して深刻な水土流失を引き起こします。

大同の人たちとともに、25年をかけて5,900ha余りに1,890万本近くの木を植えました。2000年頃から中国が熱心に緑化に取り組んだこともあり、大同では新しく植える場所がなくなって、新規の植林は2016年で終了しました。

25年間積み重ねてきた経験が無駄にせず、生かせる場所が、大同のすぐ東隣の河北省張家口市蔚県にありました。気候・土壌の条件は大同とほぼ同じ。歴史を大切にしている、古いものや文化が残った街並み、人びとの暮らしが懐かしさを感じさせます。県中心部の旧市街に散在する社寺・史跡や、農村部に多く残る古堡、



打樹花など、みどころはたくさんあります。なにより、植樹の余地がたくさん残っているのが嬉しいところです。協力3年目をむかえ、ようやくお互いに胸襟をひらいておつきあいできるようになってきました。緑化に加えて、新しい活動も始まっています。みなさんのご参加を歓迎します。

特に参加資格はもうけていませんが、上記の趣旨に賛同し、自分の行動に責任を持ち、集団行動ができ、バスでの長時間移動をふくむ旅程にたえる人というのが最低限の前提です。一般の観光旅行ではありません。「お客さま」ではなく主体的な参加者として、真剣かつ虚心に、何かを得ようという姿勢で参加してください。

●現地の気候は？

黄土高原の8月末は、初秋といっている季節です。900m以上と標高が高いので紫外線は強いですが、日陰は涼しく感じられます。帽子などの日よけ対策、気温の変化に対応するためのしっかりした生地 of 長袖シャツをご用意ください。

★関心をお持ちの方は、まずGEN事務所までお気軽にお問い合わせください。連絡先はこの裏にあります。

